

Medical Technology News

臨床検査室新聞



輝かしい新年を迎えられたことご心からお慶び申し上げます。

日々の検査室に対しての叱咤激励またご協力に対し深く感謝申し上げます。

さて、昨年度の検査室の主な取り組みとして、一昨年、輸血療法委員会を立ち上げ諸先生やメディカルスタッフのご理解ご協力を頂きながら委員会の実施や講習会など定期開催することができ、6月には輸血適正使用の施設基準を満たし適正使用加算を取得することができました。

LOOK

プレセプシン

pre + sepsis + protein

(前) (敗血症) (蛋白) → presepsin

2002年に新規の敗血症マーカーとして発見されたsCD14-STが「プレセプシン」と命名されました。名前の由来は「敗血症に移行する前から血中濃度が上昇する蛋白」です。

【産生機序】

細菌が顆粒球等に貪食された際、同時に取り込まれたCD14がカテプシンDなどの酵素作用により消化されます。その一部がプレセプシン(分子量13kDa)として血中に放出されると考えられています。

【検査目的】

敗血症(細菌性)の診断の補助

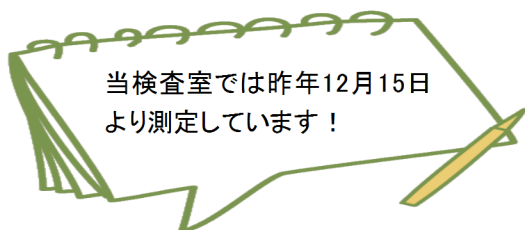
【敗血症診断のカットオフ値と参考基準値】

カットオフ値: 500pg/ml

参考基準値: 314pg/ml未満

【採血管】

EDTA加血(CBC用採血管)



今年も日々自己研鑽、スキルアップし、地域医療に貢献していきたいと考えております。そして、微力ではありますが、中核病院としての一翼を担っていきたく思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



その足の痛み、 下肢閉塞性動脈硬化症では?

散歩や買い物物の途中で足が痛くて歩けなくなり、しばらく休むとまた歩けるようになることはありませんか? このような症状は間歇性跛行といい、下肢閉塞性動脈硬化症の可能性があります。



2015年 1月
第56号
発行元 八雲総合病院
臨床検査室



ほっと time

『笑う門には福来る!!』

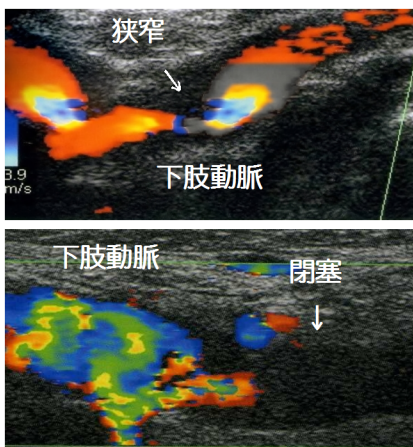
「坊さん二人で、和尚がツー！」
「謹賀新年って書く人の、気んが知んねん」
「あっ、毛ましておめでとうございませう」
「しょうもないギャグでごめんなさい!!」
今年もたくさん笑ってめでたい年にしましょうね!!

ネットより

問歇性跛行以外の症状として狭窄・閉塞しているほうの足の冷感やしびれがあり、進行すると壊死による切断が必要になることもあります。



ABI検査



下肢動脈超音波画像④狭窄⑤閉塞

検査の基本

下肢閉塞性動脈硬化症の主な検査

検査室で実施している下肢閉塞性動脈硬化の検査は、ABI検査と下肢動脈超音波検査です。

●ABI検査：足首と上腕の血圧を測定し、その比率によって下肢動脈の狭窄や閉塞を調べます。



ABI検査機器

●下肢動脈超音波検査：超音波で下肢動脈の画像を描出し、狭窄や閉塞がないか調べます(左写真)。

編集後記

昨年、健康診断を受けました。結果は：無言。日頃の不摂生のせい?。今年こそは健康に気をつけたいと思います。さて、検査室新聞も今年で6年目をむかえ、日々新しい情報を伝えるよう努めていきます。本年もよろしくお願ひします。